

令和6年(2024年)1月18日

米原市長 平尾道雄 様

米原市地域福祉計画推進会議
会長 志藤修史

第3次米原市地域福祉計画の策定について（答申）

令和4年（2022年）10月21日付け米福政第504号で諮問のありました第3次米原市地域福祉計画の策定について、本推進会議において慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおり最終案として取りまとめましたので答申します。

なお、地域福祉計画の策定にあたっては、誰もが安心して暮らせる米原市とするため、地域住民がお互い助け合い一人ひとりの暮らしと生きがいを創っていく地域共生社会を実現するとともに、支援が必要なすべての人に手を差し伸べていくため、地域包括ケアシステムを基本とした包括的な支援体制を構築し、市民や事業所、行政が協働して複合的な課題の解決に取り組むことが求められています。

本推進会議で提起・議論した主要な点は次のとおりであり、これらについて計画行政の確たる基本方針を構築して実施されることを要望します。

記

1 誰ひとり取り残さないしくみづくり

複雑化・複合化した課題が潜在する社会生活において、課題を抱える一人ひとりに合った支援やサービスが受けられるよう、行政や関係機関、住民など地域全体で包括的・重層的に支援できるしくみを構築することにより、誰ひとり取り残さない地域づくりを進められたい。

特に、地域や人のつながりの希薄化による孤立・孤独やひきこもりなどの支援が必要な人に、さまざまな手段や方法を用いて支援を届けることが急務であり、地域で相談支援に携わる人や福祉サービスの事業者、社会福祉協議会、行政等の多機関が連携した包括的相談支援を進めるほか、福祉制度に精通した専門職の育成を進められたい。

2 みんなが支え合うつながりづくり

地域における支え合いや助け合いが機能するよう、顔の見える関係づくりや地域福祉に関する意識啓発、多様な交流等により地域活動への参画促進を図られたい。

特に、子どもから大人まで、人権や福祉等に関する学びや体験の場づくりを行い、人を想う福祉のこころを育むことで、さまざまな場面において人と人がつながる意識醸成の高まりを期待するところである。隣近所や自治会等で身近な助け合いを進めながら自治会エリアをはじめとする圏域に応じた支え合いのしくみを構築することで、地域活動を活性化されたい。

3 安心して暮らせる生活基盤づくり

住まいの場や移動手段を確保し、防災・感染症対策等も含めた生活環境や支援体制の充実など、誰もが安心して暮らせる生活基盤づくりの推進を図られたい。

特に、超高齢社会の進展による高齢者の増加は、運転免許の返納後の買い物や通院など、日常生活における課題が散見されることから、移動支援の充実や暮らしの利便性が高まる公共交通ネットワークの充実に努められたい。併せて、スマートフォン等を活用し福祉分野におけるデジタル社会の推進を進め、市民の利便性と行政サービスのさらなる向上に期待する。

また、今まで経験したことがない異常気象が頻発するようになり、甚大な被害を及ぼす自然災害の危険性も増していることから、住民の防災意識の向上や災害ボランティアネットワークの充実に努めるとともに、避難行動要支援者が安心して避難できるよう体制の充実に取り組まれたい。

以上